



市勢

沿 革

当地方は、縄文時代の遺物、遺跡が数多く発見されることから、数千年の昔から人々が生活していたことがうかがわれる。

鎌倉時代、源頼朝が平泉の藤原氏を討ったとき、文治 5 年（1189 年）甲斐国南部郷の南部三郎光行が、軍功によって糠部（今の青森県三八上北地方）、久慈・閉伊・鹿角比内（今の秋田県大館市付近）の 5 郡を授けられた。これが南部氏の始まりで、その後、三戸に本拠を構えたという。

その後、建武中興のとき甲斐国波木井の地を領していた南部又次郎師行は、陸奥国国司北畠顕家に従って奥州に下り、国司の代理として糠部を管轄し、建武元年（1334 年）石懸村八森（現在の八戸市根城地区）に城を築いた。顕家はこれを「奥州を平定する根本の城である」と称したことから「根城」と呼ぶようになったといわれる。これが現在史跡に指定されている根城跡である。

根城の南部氏は 5 代にわたって南朝に忠誠を尽くし、この地を支配していたが、室町時代になって三戸の南部氏が勢力を盛り返し、安土桃山時代の慶長 4 年（1599 年）、居城を今の盛岡に移した。根城の南部氏はやがてその支配を受けるようになり、寛永 4 年（1627 年）には 4 代師行から 22 代直義まで 19 代にわたって住みなれた根城から岩手県遠野にところ替えになった。

その後、盛岡の南部重直は嗣子がなく没したため、幕府の命により 10 万石の領地を兄弟 2 人で 8 万石と 2 万石に分け与えて、八戸は弟の直房が支配し、ここに八戸藩が生まれた。以来、300 年余りにわたって当地方の中心都市として発達してきた。

近隣 3 町 1 村で合併した昭和 4 年（1929 年）の市制施行時は、人口はわずか 5 万人程度であったが、その後、隣接村との合併や昭和 39 年（1964 年）の新産業都市指定による急速な工業集積、都市化の進展、水産業の発展等と相まって、昭和 41 年（1966 年）には 20 万人台に達した。さらに平成 13 年（2001 年）には特例市に移行し、平成 17 年（2005 年）3 月には隣接する南郷村と合併し、現在は人口約 25 万人を数えるに至っている。

「八戸は海から拓け、海とともに発展してきた」といわれるように、江戸時代から交易の拠点として栄えた八戸港は、明治以降、漁港及び商港の近代化が進められ、昭和 14 年（1939 年）に開港指定、昭和 26 年（1951 年）に重要港湾に指定され、港の整備に拍車が掛かった。昭和 35 年（1960 年）に特定第三種漁港に指定されたのを契機に、水産都市としての基盤整備が進められ、これまで 6 度、水揚げ量日本一を記録している。また、昭和 39 年（1964 年）の新産業都市の指定などにより、八太郎地区や河原木地区で港湾整備が進められ、紙・パルプ、非鉄金属、鉄鋼、食料品等を中心に、臨海型・素材型産業の集積が進んだ。近年では、当市を含む地域が、相次いであおりエコタウンプランの承認、総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の指定および環境・エネルギー産業創造特区の認定を受け、リサイクル関連事業や、新エネルギー関連事業が展開されている。

一方、内陸部では、平成元年（1989 年）の頭脳立地法の指定などにより、八戸ハイテクパークとその中核施設である八戸インテリジェントプラザが整備され、青森県工業総合研究センター八戸地域研究所とともに、地域産業の高度化・高付加価値化が進められている。

農業については、野菜、花き、果樹、畜産など、地域特性を生かした多様な生産が展開されている。中でも、南郷区のそばやブルーベリー、市川地区のハウス栽培のイチゴなどは地域の特産となっているほか、畜産は臨海部の大規模な飼料コンビナートを背景に、当市の農林畜産業粗生産額の約 6 割を占めている。

当市は、首都圏と直結する東北縦貫自動車道八戸線や、本州と北海道を結ぶフェリーが就航する八戸港、東京および大阪を結ぶ三沢（八戸）空港などを有し、陸・海・空の交通結節点となっている。さらに、平成 14 年（2002 年）の東北新幹線八戸開業により、本格的な高速交通時代に突入り、当市を訪れる観光客やビジネス客が増加している。特に、国の重要無形民俗文化財に指定された八戸三社大祭や八戸えんぶりの来場者数の増加に加え、十和田・八幡平や下北地域、三陸海岸との広域的な観光ネットワークの拠点として、にぎわいを見せている。

このように、当市は、人口約 70 万を擁する北奥羽地域の経済・社会・文化の中心として発展してきており、今後も、地域の拠点都市として、自立した地方政府を目指し、さらなる都市機能の充実と拠点性の強化に取り組んでいるところである。

年 表

西暦	年号	こ と が ら	西暦	年号	こ と が ら
	あ	け		昭	和
		ぼ			
		の			
1189	文治5年	南部三郎光行、糠部五郡を領すという	1928	昭和3年	内務省指定港湾となる。小中野町 宮湊川魚市場開設
1334	建武元年	南部師行、石懸村八森に城を築く	1929	" 4年	八戸町、小中野町、湊町、鮫村が 合併し市制を施行(5月1日)
1627	寛文4年	南部直義、根城から閉伊郡遠野 (いまの岩手県遠野市)に移る	1930	" 5年	第1回全日本スピードスケート選 手権大会開催
1664	寛文4年	南部直房、八戸藩2万石の藩主と なる	"	" "	国鉄八戸線久慈まで開通
1695	元禄8年	八戸藩凶作、領内の人口58,507人	1932	" 7年	株式会社八戸魚市場創立(湊川魚 市場組合の業務を継承)
1702	" 15年	藩内凶作となり餓民13,660人	"	" "	市営バス創業
1753	宝暦3年	藩内凶作、損耗高11,852石余りと いう	"	" "	三陸地方に強震大津波襲来 (3月3日)
1755	" 5年	大凶作。安藤昌益「自然真営道」 100巻を著わす	1935	" 10年	第2種重要港湾に指定される
1783	天明3年	大飢饉となり、19,236石2斗の損 耗という	1937	" 12年	日東化学工業八戸工場創設
1784	" 4年	前年の凶作により餓死、病死者 30,105人	1939	" 14年	商港第1期工事成る(内務省、昭 和7年着手)開港指定となる
1837	天保8年	八戸領内また凶作となる	1940	" 15年	館村の一部を編入
	明	治	"	" "	商港第2期工事着手、同21年戦争 のため工事打ち切る
			1942	" 17年	下長苗代村を合併
1868	明治元年	官軍陸海から来八青森へ向かって 進発(11月)	"	" "	内務省、海軍省の委託工事として 蕪島突堤の埋め立てと道路築造に 着手、翌18年完工
1869	" 2年	南部信順藩籍を奉還、藩知事に任 じられる(6月)	"	" "	第12回明治神宮国民体育大会ス ケート大会を開催
1871	" 4年	廃藩置県により八戸県となる	1946	" 21年	合同酒精が東北アルコール工業を 合併、八戸工場として生産開始
1873	" 6年	八戸尋常小学校開校	1947	" 22年	第1回国民体育大会冬季大会スケ ート競技会開催
1881	" 14年	明治天皇東北を巡幸	1948	" 23年	戦時、統合されたバス路線を南部 鉄道から買収し、市営バスとして 再発足
"	" "	内務省、八戸港実測のため、オラ ンダ人技師ローエンホルストムル テンを派遣、翌年築港計画成る	"	" "	八戸海上保安部設置(5月)
1890	" 23年	町村制による八戸町となる	1950	" 25年	上水道給水をはじめ
1891	" 24年	日本鉄道会社青森線(現東北本 線)を敷き、尻内に駅を設ける	1951	" 26年	重要港湾に指定される
1893	" 26年	八戸中学校開校(現八戸高校)	"	" "	日本高周波鋳業が日本砂鉄鋳業八 戸工場(昭和12年創設)を買収し 八戸工場として操業
1894	" 27年	尻内駅から分岐、湊線が開通	"	" "	第6回国民体育大会冬季スケート 競技会開催
1901	" 34年	長者村を合併	"	" "	米国メトロポリタン・ホッケーチ ームと東北代表チームとの親善試 合行われる
	大	正	"	" "	小中野新漁港修築起工(9月)
1919	大正8年	鮫漁港の修築に着工	1952	" 27年	是川村を合併(12月)
1921	" 10年	日の出セメント湊工場操業(現八 戸セメント)	1953	" 28年	
1924	" 13年	八戸町大火、1,413棟焼失(5月 16日)	1954	" 29年	
"	" "	八戸線鮫駅まで開通			

西暦	年号	こ と が ら	西暦	年号	こ と が ら
1955	昭和30年	市川、館、上長苗代の3村を合併(4月)	1969	" 44年	水産物流通加工センター建設指定(3月)
"	" "	豊崎村を合併(10月)	"	" "	か穀類輸入特定港指定(6月)
1956	" 31年	陸上自衛隊高館に開隊(5月)	"	" "	国立重症心身障害児(者)施設の開所(6月)
"	" "	馬淵川改修工事竣工(昭和12年着手)	"	" "	市制40周年記念(八戸市民憲章制定)(7月)
"	" "	都市ガス供給はじまる(11月)	"	" "	スピードスケートリンク(パイピング)完成(12月)
"	" "	第11回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催	"	" "	八戸市農業センター完成(1月)
1957	" 32年	海上自衛隊八戸航空隊開隊(3月)	1970	" 45年	第二工業港1万5千トン埠頭供用開始(1月)
"	" "	日曹製鋼八戸工場操業(現、大平洋金属)(4月)	"	" "	八戸臨海鉄道株式会社営業開始(12月)
1958	" 33年	旧豊崎村豊間内地区が五戸へ編入(6月)	"	" "	第26回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催
"	" "	東北地方初の火力発電所操業(6月)	1971	" 46年	八戸短期大学開校(4月)
"	" "	大館村を合併(9月)	"	" "	植物輸入特定港指定
"	" "	三八城病院を買収し市立市民病院を開設(11月)	1972	" 47年	国道45号線八戸バイパス一部開通(2月)
1959	" 34年	市営第二魚市場完成(8月)	"	" "	八戸工業大学開校(4月)
1960	" 35年	特定第三種漁港に指定される	"	" "	柳橋3・4・8街路開通(4月)
"	" "	チリ地震津波襲来(5月24日)	"	" "	八戸市民プール完成(7月)
"	" "	東新鋼業八戸工場操業(10月)	"	" "	市民の花「キク」制定(10月)
"	" "	新市庁舎竣工(11月3日)	"	" "	馬淵大橋(国道45号バイパス)開通(3月)
1961	" 36年	白銀町大火1,043棟焼失(5月29日)	1973	" 48年	八戸・苫小牧カーフェリー就航開始(4月)
1962	" 37年	青森労災病院開設(2月)	"	" "	魚市場卸売業務を複数制へ移行(8月)
"	" "	第17回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催	1974	" 49年	市立図書館100周年を迎える(6月)
1963	" 38年	国立工業高等専門学校設置(1月)	"	" "	県新産都市会館完成(11月)
"	" "	天皇、皇后両陛下御来市(5月22日)	1975	" 50年	第三魚市場完成(3月)
1964	" 39年	新産業都市に八戸地区指定(3月3日)	"	" "	八戸市立商業高校が県立へ移管(3月)
1965	" 40年	木材輸入特定港に指定(7月)	"	" "	八戸市公会堂開館(5月)
"	" "	開市300年記念式典挙行(8月)	"	" "	歴史民俗資料館完成(5月)
1966	" 41年	青森県鉄道専用線完成(3月)	"	" "	県立「種差少年自然の家」完成(11月)
"	" "	青森県工業用水道完成(6月)	1976	" 51年	青森勤労総合福祉センターはちのへハイツ完成(7月)
"	" "	全国高校総合体育大会、弓道、バレーボール、レスリング、ボクシング競技会開催	"	" "	八戸港道路八戸大橋開通(9月)
"	" "	三菱製紙八戸工場操業(9月)	1977	" 52年	第32回国民体育大会冬季スケート競技会開催(あすなろ国体)(1月)
"	" "	八戸漁港水揚げ量日本一を記録(25万3千トン)	"	" "	老人憩いの家「臥牛荘」完成(4月)
1967	" 42年	馬淵川一級河川に指定(6月)	"	" "	国鉄八戸線高架開通(4月)
"	" "	市営魚菜小売市場新装(11月)	"	" "	八戸港第二工業港5万トン岸壁供用開始(5月)
1968	" 43年	十勝沖地震発生津波襲来、死者18人、傷者305人、被害総額170億円(5月16日)	"	" "	
"	" "	八戸製錬操業(10月)	"	" "	
"	" "	八戸漁港水揚げ量連続3年日本一を記録(43万4千トン)	"	" "	

西暦	年号	こ と が ら	西暦	年号	こ と が ら
1977	〃 52年	第32回国民体育大会秋季大会開催 (10月)	1982	昭和 57年	八戸市農業研修センター完成 (4月)
〃	〃 〃	八戸市中央卸売市場開設 (11月)	〃	〃 〃	二つ玉低気圧による大雨災害 (5月21・22日)
〃	〃 〃	第1回老人スポーツ大会開催	〃	〃 〃	八戸市民広場完成 (7月)
1978	〃 53年	第1回全日本ジュニアスピード競技選手権大会開催 (2月)	〃	〃 〃	市営バス事業創業50周年記念式典挙行 (10月)
〃	〃 〃	八戸市福祉体育館完成 (4月)	〃	〃 〃	八戸市営斎場完成 (10月)
〃	〃 〃	“クリーンはちのへ” 推進市民大会開催 (6月)	〃	〃 〃	水揚げ金額八戸漁港史上最高を記録 (933億円) (12月)
〃	〃 〃	市民の森“不習岳” 開園 (7月)	1983	〃 58年	白銀児童センター完成 (3月)
〃	〃 〃	東部終末処理場の一部完成、公共下水道一部供用開始 (9月)	〃	〃 〃	小中野排水ポンプ場一部完成 (3月)
〃	〃 〃	八戸市総合健診センター業務開始 (10月)	〃	〃 〃	城北小学校開校 (4月)
〃	〃 〃	八戸漁港水揚げ量日本一を記録 (75万トン)	〃	〃 〃	博物館開館 (7月)
1979	〃 54年	八戸市身体障害者更生館完成 (3月)	〃	〃 〃	八戸市魚市場50周年記念式典挙行 (9月)
〃	〃 〃	市制施行50周年記念式典挙行および市民の木「イチイ」市民の鳥「ウミネコ」制定 (5月)	〃	〃 〃	陸奥湊橋上駅舎完成 (11月)
〃	〃 〃	八戸・室蘭間カーフェリー就航開始 (5月)	〃	〃 〃	青森陸運事務所八戸支所開設 (12月)
〃	〃 〃	根城大橋開通 (11月)	1984	〃 59年	八戸市新井田インドアリンク完成 (5月)
1980	〃 55年	櫛引清掃工場操業開始 (54年火入れ式) (1月)	〃	〃 〃	新市立図書館開館 (5月)
〃	〃 〃	馬淵川潮止完成 (48年着工) (4月)	〃	〃 〃	国道45号北バイパス供用開始 (12月)
〃	〃 〃	八戸植物公園開園 (4月)	1985	〃 60年	第40回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催 (1月)
〃	〃 〃	老人福祉センター「馬淵荘」落成 (5月)	〃	〃 〃	文化教養センター南部会館開設 (4月)
〃	〃 〃	粗大ごみ処理施設完成 (6月)	〃	〃 〃	水産会館完成 (10月)
〃	〃 〃	児童科学館落成 (10月)	〃	〃 〃	八戸市休日夜間急病診療所開設 (10月)
1981	〃 56年	市庁新館落成 (1月)	1986	〃 61年	西園小学校開校 (4月)
〃	〃 〃	第1回全国中学校スケート競技大会開催 (2月)	〃	〃 〃	八戸圏域水道企業団発足 (4月)
〃	〃 〃	根城小学校笹子分校廃校 (3月)	〃	〃 〃	市民保養所「洗心荘」完成 (10月)
〃	〃 〃	八戸大学開校 (4月)	〃	〃 〃	八戸自動車道 (一戸～八戸間) 完成 (11月)
〃	〃 〃	武道館開館 (4月)	〃	〃 〃	美術館開館 (11月)
〃	〃 〃	障害者福祉都市に指定 (5月)	1987	〃 62年	第36回全国高校スケート競技選手権大会開催 (1月)
〃	〃 〃	沼館排水ポンプ場一部使用開始 (9月)	〃	〃 〃	鮫公民館完成 (3月)
〃	〃 〃	東北縦貫自動車道八戸線起工式 (9月)	〃	〃 〃	特定雇用開発促進地域指定 (4月)
1982	〃 57年	老人いこいの家「更上閣」閉館 (1月)	〃	〃 〃	東体育館完成 (6月)
〃	〃 〃	八戸地域職業訓練センター完成 (2月)	1988	〃 63年	白銀南小学校開校 (4月)
〃	〃 〃	老人福祉施設「青山荘」開館 (2月)	〃	〃 〃	八戸勤労者体育施設・サンスポーツランドうみねこ完成 (4月)
〃	〃 〃	吹上児童館完成 (3月)	〃	〃 〃	テレトピア構想の第三次モデル都市に八戸市指定 (6月)
〃	〃 〃	北稜中学校開校 (4月)	〃	〃 〃	第28回全日本実業団スピードスケート競技会開催 (12月)
			〃	〃 〃	水揚げ数量八戸漁港史上最高を記録 (81万9千トン) (12月)

西暦	年号	こ と が ら	西暦	年号	こ と が ら
	平	成	1994	平成6年	東北新幹線盛岡以北フル規格化決定(12月)
			"	" "	三陸はるか沖地震発生(12月28日)
1989	平成元年	頭脳立地法に基づく「八戸地域集積促進計画」通産省の承認を受ける(3月)			死者2人、傷者680人、被害総額524億円)
"	" "	東中学校開校(4月)	1995	" 7年	第44回全国高校スケート競技選手権大会開催(1月)
"	" "	市制施行60周年記念式典挙行(5月)	"	" "	東北新幹線盛岡・八戸間フル規格建設着工(5月)
"	" "	総合教育センター完成(9月)	"	" "	八戸三社大祭山車「日本・シンガポール郷土祭」に参加(9月)
"	" "	水産科学館完成(10月)	"	" "	八戸港とタコマ港(米国ワシントン州)が経済貿易協定締結(11月)
"	" "	屋内トレーニングセンター完成(10月)	"	" "	輸入促進地域(FAZ)に指定(3月)
1990	" 2年	東北新幹線盛岡以北の平成3年度着工決定(12月)	1996	" 8年	"行政改革大綱」策定(3月)
1991	" 3年	八戸市教育情報ネットワークシステム開始(2月)	"	" "	白山台小学校開校(4月)
"	" "	八戸市スポーツ研修センター完成(4月)	"	" "	「蕪島のウミネコ」日本の音百選に認定(6月)
"	" "	白銀南中学校開校(4月)	"	" "	「大須賀海岸」日本の渚百選に認定(7月)
"	" "	八戸ハイテクパーク完成(11月)	"	" "	市庁舎別館災害復旧工事着工(7月)
1992	" 4年	ゆとり創造宣言都市に指定(8月)	"	" "	八戸清掃工場第一工場落成(8月)
"	" "	南部山健康運動センター完成(10月)	"	" "	「21世紀活力圏創造事業基本計画」通産省及び建設省から認定(10月)
"	" "	八戸インテリジェントプラザ完成(10月)	"	" "	中国コンテナ定期航路開設(3月)
"	" "	八戸地域地場産業振興センター完成(12月)	1997	" 9年	ポートアイランド一部供用開始(35ha)(4月)
1993	" 5年	第48回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催(1~2月)	"	" "	新市民病院完成(9月)
"	" "	八戸地方拠点都市地域に指定(2月)	1998	" 10年	市庁舎別館落成(2月)
"	" "	動物検疫港に指定(4月)	1999	" 11年	市制施行70周年記念式典挙行(5月)
"	" "	日計ヶ丘小学校開校(4月)	2000	" 12年	八戸リサイクルプラザ稼動(4月)
"	" "	米国ワシントン州フェデラルウェイ市と姉妹都市提携(8月)	2001	" 13年	特例市移行(4月)
"	" "	八戸市総合福祉会館完成(10月)	"	" "	ISO14001を認証取得(10月)
"	" "	コンテナ船国際定期航路開設協定締結(11月)	2002	" 14年	第1回タウンミーティング開催(4月)
1994	" 6年	老人いこいの家「海浜荘」落成(4月)	"	" "	台風6号市内に被害もたらす(7月)
"	" "	八戸市中央卸売市場花き部開設(6月)	"	" "	八戸駅東西自由通路使用開始(7月)
"	" "	縄文学習館開館(6月)	"	" "	東北縦貫自動車道八戸線(八戸J.C.~八戸北I.C.間)開通(7月)
"	" "	学園都市・地区基本計画策定調査実施地域の指定(7月)	"	" "	八戸漁連とはちのへ漁協が民事再生法を申請(8月)
"	" "	東南アジアコンテナ定期航路開設(8月)	"	" "	フェデラルウェイ市バービッジ市長八戸市議会ですピーチ(9月)
"	" "	史跡根城の広場完成(10月)	"	" "	屋台村みろく横丁開業(11月)
"	" "	世界地方都市十字路会議開催(10月)	"	" "	東北新幹線八戸駅開業(12月)
			2003	" 15年	八戸屋台村全面オープン(3月)
			"	" "	記録的な大雪八戸で35cmの積雪(3月)
			"	" "	八戸地域合併法定協議会発足(4月)
			"	" "	環境・エネルギー産業創造特区認定(5月)

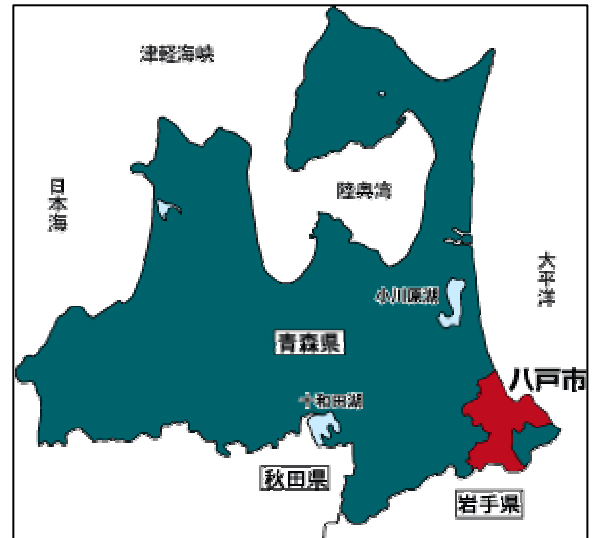
西暦	年号	こ と が ら	西暦	年号	こ と が ら
2003	平成15年	世増ダム竣工(10月)	2006	平成18年	第5次八戸市総合計画前期推進計画策定(9月)
"	" "	低温、日照不足による10年ぶり冷害(10月)	"	" "	田園空間博物館の全施設供用開始(10月)
"	" "	八戸市女性模擬議会の開催(10月)	"	" "	はちのへ地域SNS(はちみーつ)実証実験開始(11月)
2004	" 16年	第59回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催(1月～2月)	"	" "	「八戸IT人材育成特区」に認定(11月)
"	" "	八戸三社大祭の山車行事が国重要無形民俗文化財に指定(2月)	2007	" 19年	白山台中学校開校(4月)
"	" "	浅水川河川改修完成(3月)	"	" "	グレットタワーみなとオープン(4月)
"	" "	八戸港が総合静脈物流拠点港に指定(4月)	"	" "	八戸久慈自動車道「八戸南道路」開通(6月)
"	" "	八戸地域合併法定協議会解散(6月)	"	" "	長者まつりめぐり広場オープン(8月)
"	" "	アテネオリンピックレスリング競技で当市出身の伊調姉妹がメダル獲得(8月)	"	" "	第20回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレクあおもり2007」開催(9月)
"	" "	八戸市・南郷村合併協議会設置(9月)	"	" "	株式会社まちづくり八戸発足(10月)
"	" "	南郷村との合併調印式(10月)	"	" "	中里信男元市長が名誉市民に(11月)
"	" "	作家の三浦哲郎氏が名誉市民に(11月)	"	" "	
2005	" 17年	全国高等学校総合体育大会スケート・アイスホッケー競技開催(1月)			
"	" "	南郷村立図書館落成式(2月)			
"	" "	全国中学校体育大会スケート・アイスホッケー大会開催(2月)			
"	" "	八戸久慈自動車道「八戸南環状線」暫定開通(3月)			
"	" "	南郷村閉村式(3月)			
"	" "	南郷村と合併(3月)			
"	" "	南郷区役所開所式(3月)			
"	" "	合併記念式典(4月)			
"	" "	青葉湖展望交流施設オープン(6月)			
"	" "	八戸港の館鼻漁港地区がみなとオアシスに認定(7月)			
"	" "	第29回全国高等学校総合文化祭開催(7月)			
"	" "	新エネルギー等地域集中実証研究八戸市水の流れを電気ですすプロジェクト稼働(10月)			
"	" "	全国産業観光フォーラム in はちのへ開催(10月)			
2006	" 18年	根城が日本100名城に認定(4月)			
"	" "	「循環型都市」を宣言(7月)			
"	" "	八戸市ファミリーサポートセンター開設(7月)			
"	" "	八戸、久慈、二戸の三圏域連携懇談会スタート(7月)			
"	" "	第27回世界バトントワリング選手権で当市出身の吉田姉妹が世界一に(8月)			
"	" "	8月・10月に相次いで水害発生(8・10月)			

概 況

1 位置

本市は、青森県の東南部に位置し、地形はおおむね平坦であるが南方はわずかに台地を形成しており、市の中央部を流れる馬淵川、新井田川はともに源を岩手県に発し両川の河口を中心に漁港、商港、工業港が整備されている。北部は十和田湖から流れ出る奥入瀬川を隔てておいらせ町に接し、東方は太平洋に面して開けている。

中心位置 東経141° 30′ 北緯40° 30′
面 積 305.17km²



2 市域の推移

年 月 日	編 入 町 村 名	編入面積	総面積
昭和4. 5. 1	市制施行（八戸町、小中野町、湊町、鮫村合併）		58.49km ²
15. 1. 1	館村の一部編入	15.34km ²	73.83km ²
17. 4. 1	下長苗代村合併	24.65km ²	98.48km ²
29. 12. 1	是川村合併	23.41km ²	121.89km ²
30. 4. 1	上長苗代村合併	16.50km ²	138.39km ²
30. 4. 1	市川村合併	24.03km ²	162.42km ²
30. 4. 1	館村合併	23.51km ²	185.93km ²
30. 10. 20	豊崎村合併	14.41km ²	200.34km ²
33. 6. 1	五戸町境界変更	△7.05km ²	193.29km ²
33. 9. 10	大館村合併	19.52km ²	212.81km ²
平成17. 3. 31	南郷村合併	91.13km ²	303.94km ²
	公有水面埋立等	1.23km ²	305.17km ²

3 住民基本台帳人口の推移

年 度	世帯数	人 口			人口密度 (人/㎢)	一世帯当たり の人員数
		総 数	男	女		
昭和 4	8,836	51,529	25,873	25,656	881	5.83
10	10,197	60,966	30,379	30,578	1,042	5.98
20	13,987	79,031	39,863	39,168	803	5.65
30	22,581	117,676	57,960	59,716	965	5.21
40	46,102	199,530	100,488	99,042	935	4.32
50	65,707	227,068	112,465	114,603	1,064	3.45
60	77,665	241,768	118,416	123,352	1,134	3.11
平成 元	81,320	242,662	118,360	124,302	1,138	2.98
2	82,395	242,607	118,426	124,181	1,138	2.94
3	83,453	242,901	118,303	124,598	1,140	2.91
4	84,358	242,709	118,084	124,625	1,139	2.88
5	85,622	243,248	118,359	124,889	1,140	2.84
6	86,507	243,620	118,585	125,035	1,142	2.82
7	87,788	244,565	119,201	125,364	1,146	2.79
8	88,929	244,810	119,344	125,466	1,147	2.75
9	89,853	244,798	119,089	125,709	1,146	2.72
10	90,581	244,151	118,555	125,596	1,141	2.70
11	91,365	243,611	118,252	125,359	1,139	2.66
12	92,440	243,796	118,293	125,503	1,139	2.64
13	93,504	243,880	118,241	125,639	1,139	2.61
14	94,708	244,075	118,330	125,745	1,140	2.58
15	95,443	243,285	117,744	125,541	1,137	2.55
16	98,492	249,115	120,495	128,620	790	2.53
17	99,467	247,870	119,663	128,207	812	2.49
18	100,559	247,115	119,078	128,037	810	2.45

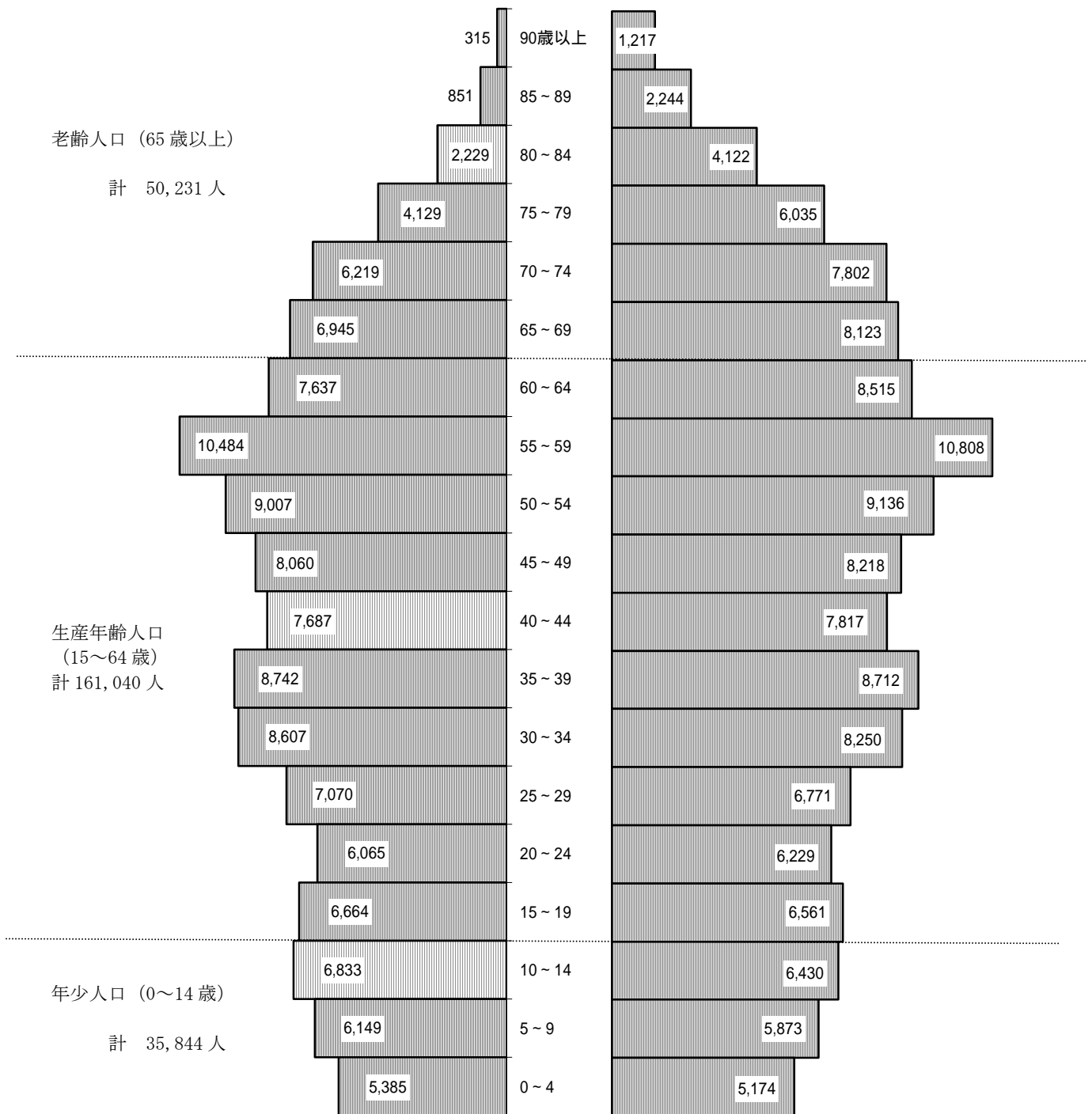
(昭和4年、10年、20年、30年は12月末日現在、その他は各年度の3月末日現在)

4 人口ピラミッド

(H19. 3. 31現在)

男 (119,078 人)

女 (128,037 人)



5 人口動態の推移

年度	区分	自然動態			社会動態			増加人口 (A) + (B)
		出生	死亡	増減(A)	転入	転出	増減(B)	
平成	2	2,762	1,330	1,432	9,816	11,303	△1,487	△55
	3	2,830	1,398	1,432	9,949	11,087	△1,138	294
	4	2,681	1,518	1,163	9,946	11,301	△1,355	△192
	5	2,660	1,502	1,158	10,156	10,775	△619	539
	6	2,791	1,692	1,099	10,038	10,765	△727	372
	7	2,683	1,546	1,137	9,907	10,099	△192	945
	8	2,640	1,667	973	9,895	10,623	△728	245
	9	2,525	1,715	810	9,439	10,261	△822	△12
	10	2,503	1,754	749	9,184	10,580	△1,396	△647
	11	2,419	1,626	793	8,694	10,027	△1,333	△540
	12	2,423	1,666	757	8,711	9,283	△572	185
	13	2,311	1,835	476	8,889	9,281	△392	84
	14	2,332	1,821	511	8,901	9,217	△316	195
	15	2,206	1,934	272	8,214	9,276	△1,062	△790
	16	2,111	1,938	173	7,990	9,047	△1,057	△884
	17	1,977	2,070	△93	8,022	9,174	△1,152	△1,245
	18	2,060	2,074	△14	7,677	8,418	△741	△755

6 産業別就業者数

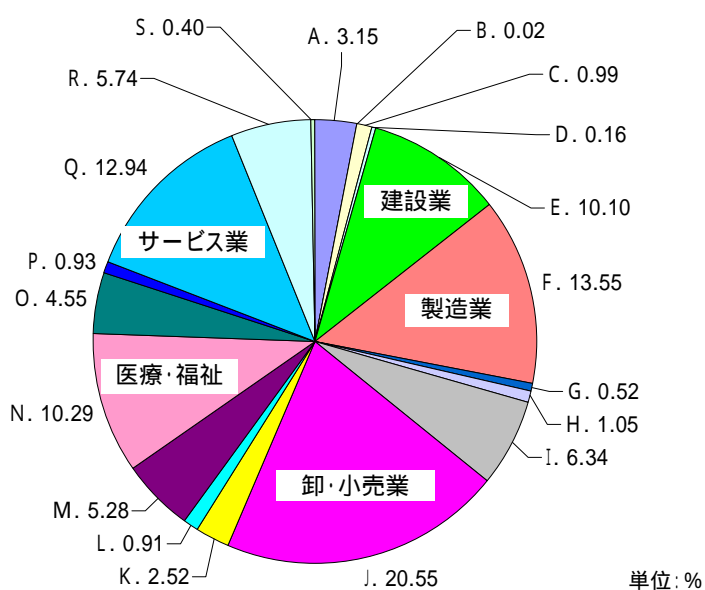
【平成17年国勢調査結果】

産業（大分類）	総数 1)	雇用者			役員	雇人の ある 業主	雇人 のない 業主	家族 従業者	家庭 内職者
		総数	常雇	臨時雇					
八戸市	113,340	92,976	79,273	13,703	5,248	3,139	7,168	4,520	284
総数	113,340	92,976	79,273	13,703	5,248	3,139	7,168	4,520	284
A 農業	3,575	586	424	162	53	134	1,438	1,364	-
B 林業	22	11	8	3	2	2	5	2	-
C 漁業	1,126	857	765	92	50	54	100	65	-
D 鉱業	187	173	169	4	13	-	1	-	-
E 建設業	11,443	8,745	7,654	1,091	1,154	543	680	321	-
F 製造業	15,361	13,816	12,174	1,642	648	169	282	228	217
G 電気・ガス・ 熱供給・水道業	594	588	553	35	6	-	-	-	-
H 情報通信業	1,186	1,070	985	85	48	11	49	8	-
I 運輸業	7,185	6,697	5,925	772	220	61	171	36	-
J 卸売・小売業	23,290	18,535	15,907	2,628	1,500	683	1,427	1,145	-
K 金融・保険業	2,859	2,591	2,360	231	84	36	118	30	-
L 不動産業	1,035	449	381	68	226	51	251	58	-
M 飲食店、宿泊業	5,990	4,162	3,149	1,013	204	534	660	430	-
N 医療、福祉	11,658	10,726	9,041	1,685	249	292	195	196	-
O 教育、学習支援業	5,153	4,711	4,027	684	44	59	305	34	-
P 複合サービス事業	1,049	1,027	804	223	18	1	3	-	-
Q サービス業 （他に分類されないもの）	14,668	11,326	9,107	2,219	720	498	1,460	597	67
R 公務 （他に分類されないもの）	6,511	6,511	5,488	1,023	-	-	-	-	-
S 分類不能の産業 （再掲）	448	395	352	43	9	11	23	6	-
第1次産業（A～C）	4,723	1,454	1,197	257	105	190	1,543	1,431	-
第2次産業（D～F）	26,991	22,734	19,997	2,737	1,815	712	963	549	217
第3次産業（G～R）	81,178	68,393	57,727	10,666	3,319	2,226	4,639	2,534	67

1) 従業上の地位「不詳」を含む。

（出典：総務省 統計局）

就業人口の産業別構成グラフ



7 市民経済計算

1人当たり所得(分配)の比較

区分		平成16年度	平成15年度	前年度比 (%)
国	国内総生産(億円) (国内総支出)	4,913,891	4,876,648	0.8
	国民所得(億円)	3,610,126	3,583,968	0.7
	一人当たり国民所得(千円)	2,826	2,807	0.7
青森県	県内総生産(百万円) (県内総支出)	4,300,365	4,357,130	1.3
	県民所得(百万円)	3,124,967	3,177,100	1.6
	一人当たり県民所得(千円)	2,152	2,174	1.0
八戸市	市内総生産(百万円) (市内総支出)	830,633	843,531	1.5
	市民所得(百万円)	578,418	593,827	2.6
	一人当たり市民所得(千円)	2,339	2,390	2.1

資料：青森県統計分析課

注：県、国とも実質については固定基準年方式による。

注：一人当たりの各所得は雇用者報酬、財産所得、企業の利潤等の合計を総人口で除したものであり、
国、県、市村経済全体の所得水準を表す有効な指標であるが、個人の所得水準を表す指標ではないので留意すること。

注：八戸市の数値は旧南郷村を含んだ合併後の数値。

産業別市内総生産(実額)

項目・区分	八戸市			
	年度	H16 (百万円)	H15 (百万円)	対前年度 増加率
1 産業		737,036	752,640	2.1
農業		9,203	7,503	22.7
林業		665	273	143.6
水産業		14,728	12,911	14.1
鉱業		3,551	4,746	25.2
製造業		111,554	115,045	3.0
建設業		45,320	58,871	23.0
電気・ガス・水道業		21,945	21,876	0.3
卸売・小売業		138,426	144,055	3.9
金融・保険業		35,929	38,253	6.1
不動産業		95,885	95,804	0.1
運輸・通信業		87,864	83,466	5.3
サービス業		171,966	169,839	1.3
2 政府サービス生産者		112,294	113,112	0.7
3 対家計民間非営利 サービス生産者		17,177	16,413	4.7
4 小計		866,507	882,166	1.8
5 輸入品に課される 税・関税		2,603	2,611	0.3
6 (控除)総資本形成に 係る消費税		4,836	4,673	3.5
7 (控除)帰属利子		33,640	36,573	8.0
8 市町村内総生産 (4+5-6-7)		830,633	843,531	1.5

資料：青森県統計分析課

注：八戸市の数値は旧南郷村を含んだ合併後の数値。

市町村民所得

項目	八戸市		
	H16 (百万円)	H15 (百万円)	対前年度 増減率
1 雇用者報酬	412,692	411,802	0.2
賃金・俸給	353,326	348,863	1.3
雇主の社会負担	59,367	62,939	5.7
雇主の現実社会負担	42,058	45,358	7.3
雇主の帰属社会負担	17,309	17,580	1.5
2 財産所得(非企業部門)	18,991	18,601	2.1
一般政府	6,842	8,182	16.4
家計	25,498	26,562	4.0
対家計民間非営利団体	335	221	51.6
3 企業所得(法人企業の 分配所得受払後)	146,734	163,424	10.2
民間法人企業	95,316	112,386	15.2
公的企業	2,837	3,950	28.2
個人企業	54,256	54,987	1.3
農林水産業	4,162	2,298	81.1
その他の産業	12,350	15,352	19.6
持ち家	37,744	37,338	1.1
市町村民所得(1+2+3)	578,418	593,827	2.6

資料：青森県統計分析課

注：八戸市の数値は旧南郷村を含んだ合併後の数値。